

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業、学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

防災キャンプ推進事業

北海道教育委員会

【事業のポイント】

<2泊3日のストーリーを構成>

- 会場を避難所に見立て、参加者は、そこに避難してきた地域住民という想定で事業を実施したこと。
- 避難所には随時支援物資が届き、参加者はそれを利用して寝所を作ったり、食事を作ったりしたこと。
また、十分な量の支援物資がない場合も想定し、参加者で物資を分ける体験を行ったこと。
- 高校生はリーダー、中学生はサブリーダーとして、小学生は上級生の指示を受け活動に参加することで、避難所で自分の役割を果たすことの重要性を学ばせたこと。

<広域連携>

- 鹿部町、木古内町及び七飯町が連携することで、事業の効果を広域的に波及させるとともに、持続可能な活動となるようにしたこと。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

都市化や核家族化、少子化等を背景に、子供たちの生活は、自然や社会、人々とかかわることが減少し、感動したり、困難に直面し葛藤したり、解決の方法を模索するような機会に恵まれないまま成長することで、子供たちの精神的な自立の遅れや社会性の不足、いじめ、暴力行為、引きこもりなど、子供たちをめぐる様々な問題が生じている。

こうしたことから、子供たちの社会性や豊かな人間性を育み、社会の一員としての自覚を促すため、地域の各関係機関等が連携し、地域の教育資源を生かした体験活動を充実させる必要がある。

また、渡島管内には、常時観測火山の一つ駒ヶ岳があり、火山噴火による災害の危険と常に隣り合わせにある。歴史的にも、駒ヶ岳の大規模噴火の他、台風による連絡船の沈没、函館市の大火などの災害が起きていて、災害への備えが進められている地域であり、子供たちが防災について学び行動できるようにしておかなければいけない地域である。

(2) ねらい

<防災意識の醸成について>

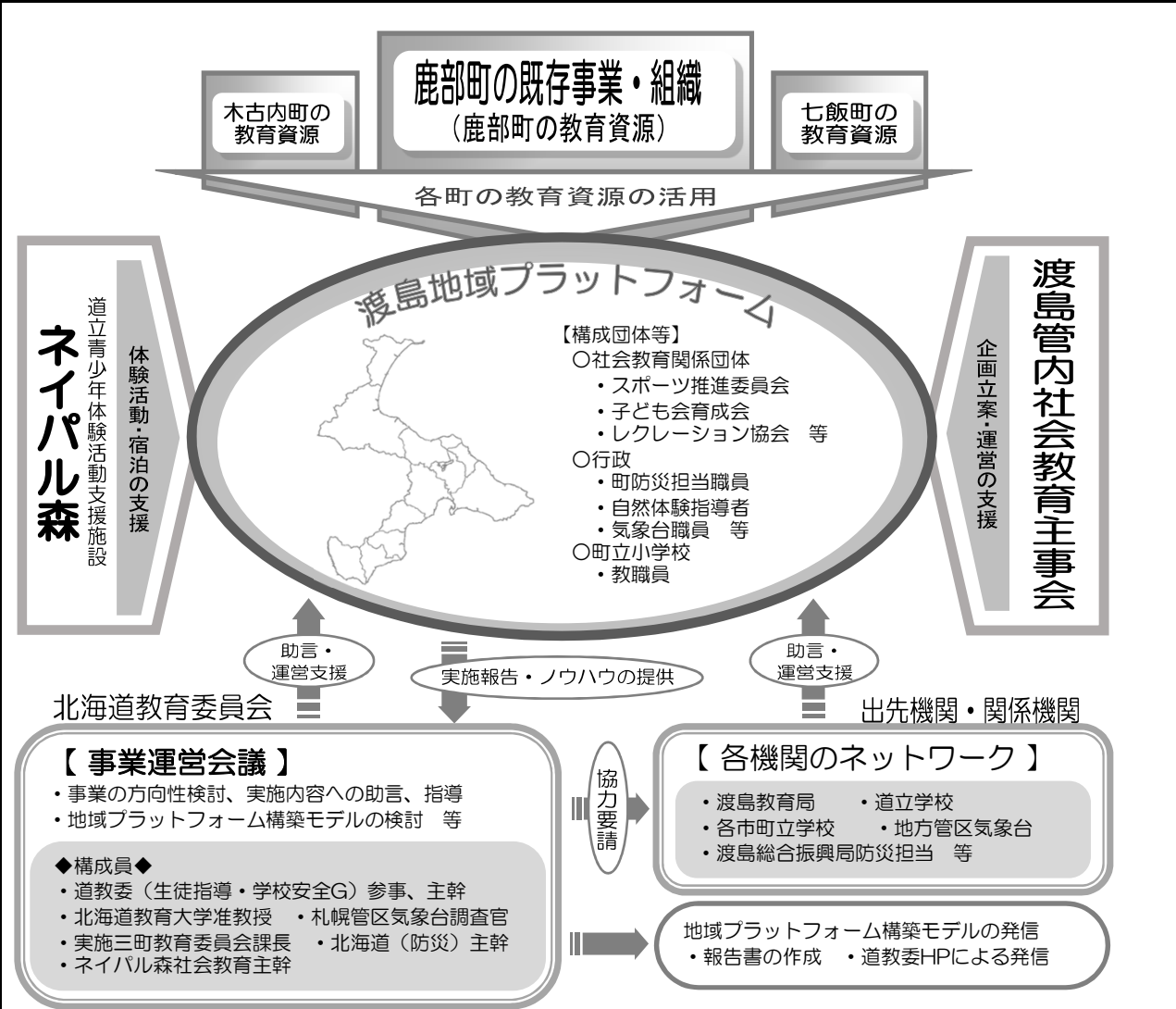
子供たちが防災について、体験活動的に学ぶことを通して、日常生活上の困難に対して解決の方策を考え、実行することができるようにする。

<プラットフォームについて>

各自治体が有する地域の学校、住民、関係機関や団体等の教育資源の連携・ネットワーク化を促進し、渡島地域における子供たちの体験活動機会を提供できる持続性のある「渡島地域プラットフォーム」を形成する。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要

ア 防災キャンプ(3町交流事業)

(ア) 目的

a 小学生

- ・町を越えた交流により、新たな視点や価値観に触れることを通して郷土愛を深める。
- ・共同生活や体験活動を通して社会のルールや自ら考えて行動する力を身に付ける。

b 中学生・高校生

- ・事業後に次代の地域活動を担うミドルリーダーとして活躍しうる資質を高める。

c 共通

- ・自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度(自助)」や災害後の生活や復旧等の「支援者となる意識(共助)」を身に付ける。
- ・過去の災害について学び、地域理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育み、地域社会の一員としてまちづくりに関わろうとする意欲を高める。

(イ) 実施日

平成28年8月3日(水)～5日(金)

(ロ) 実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

(ハ) 参加人数

77人(鹿部町町、七飯町、木古内町の小学校4～6年生、中学生、高校生)

(カ) 主なプログラム

〈8月3日(水)〉

- 講義「地域の自然災害について」
【講師】函館地方気象台職員
過去の災害や災害時の避難について、普段から家族と共有すべきことについて学んだ。
- 避難所の設営
【講師】北海道防災士会
支援物資として届いた段ボールで、グループ毎にベッドを作製し、寝所を設営した。
- 暗がり体験
夜間の避難を想定し、グループに1個の懐中電灯で散策コース約2キロを移動した。



講義の様子



段ボールベッド作製の様子

〈8月4日(木)〉

- 地形観察ツアー
【講師】函館地方気象台職員
地域の地殻変動の歴史を学ぶ。
 - ・函館湾(海上)から火山によってつくられた周囲の地形を観察
 - ・きじひき高原から駒ヶ岳や大沼等の噴火によってつくられた地形を観察
- 防災用具の作製
【講師】鹿部町スポーツ推進委員
空き缶を利用するランタンや、ティッシュペーパーと輪ゴムでマスクなどを作製した。



きじひき高原での学習の様子



できあがった空き缶ランタン

〈8月5日(金)〉

- 振り返り
サブリーダーにより、クイズ形式でキャンプを通して学んだことを振り返った。

※食事については、支援物資として届いた食材をグループで分け合い、全て野外で調理した。

イ 高校生リーダー研修会

(ア) 内容

キャンプに参加する高校生リーダーにキャンプの趣旨を理解させるとともにサブリーダーへの関わり方、参加者への関わり方について研修を行った。

(イ) 実施日時

平成28年7月30日(土) 16:30~17:30

(ウ) 実施場所

鹿部町中央公民館

(エ) 参加人数

渡島管内高校生 3名



支援物資を分け合う様子



飯ごう炊飯

ウ 中学生サブリーダー研修会

(ア) 内容

サブリーダーに対しキャンプの趣旨を理解させるとともに高校生リーダーとの役割の違いや参加者への関わり方について研修を行った。

(イ) 実施日時

平成28年8月3日(水) 10:30～11:45

(ウ) 実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

(エ) 参加人数

渡島管内中学生 15名



中学生サブリーダー研修会の様子

エ 防災キャンプ参加者フォローアップ

(ア) 内容

鹿部町の児童を対象に公民館で1泊する体験を実施。参加者は食事、寝所などグループ毎に話し合いながら快適に過ごすことができるようにすすめた。

(イ) 実施日時

平成28年9月23日(金)～24日(土)

(ウ) 実施場所

鹿部町中央公民館

(エ) 参加人数

鹿部町内の小学生 46名
(うち、防災キャンプ参加者 16名)



リーダー・サブリーダーによる反省会議の様子

(3)実績スケジュール

月 日	内 容
6月14日	第1回事業運営会議
6月21日	渡島地域プラットフォーム第1回会議
7月30日	防災キャンプ高校生リーダー研修会
8月1日	渡島地域プラットフォーム第2回会議
8月3日	防災キャンプ中学生サブリーダー研修会
8月3～5日	防災キャンプ
9月8日	渡島地域プラットフォーム第3回会議
9月23～24日	防災キャンプ参加者フォローアップ
1月17日	第2回事業運営会議、全道防災教育研究フォーラム

3. 成果と課題

(1) 成果

<防災意識向上について>

- 炭火を使った調理を繰り返し体験したことで、参加者が次に何をするのか考えて行動できるようになった。
- 暗がり体験では一度体験したことで、万一の時には落ち着いて行動することができる自信を身に付けさせることができた。
- 防災キャンプ後の鹿部町事業では、参加者が下級生を指導し、参加者主導で1泊の宿泊体験を行うことができた。
- 身近なもので防災や災害時に役立つものを作る体験を通して、工夫すればできることを学習し、万一の際の備えとすることができた。
- キャンプ後に各家庭で災害時の避難経路、避難先の確認を行ったとの報告があった。

<プラットフォームについて>

- 多くの町が運営に参加することで、各町の担当者が事業運営、防災への取組のスキルを身に付けることができた。
- 気象台職員の方や地域防災マスターの方など、防災関係のネットワークを広げることができ、各町での活動をすすめるきっかけとすることができた。
- 今回のプラットフォーム形成により、次年度のキャンプ事業には新たに1町が加わり、事業を展開することとなった。

(2) 課題

<事業運営上の課題について>

- 今回の運営は、町教委職員が担っていた役割が多かったことから、地域住民による企画立案、事業運営ができる体制づくりを進める必要がある。

<事業成果の普及啓発の課題について>

- 鹿部町では、参加した子供たちが中心となって1泊2日の防災キャンプ参加者フォローアップ（宿泊体験）を実施した。このように今回のキャンプで身に付けたスキルを発揮する場を各町で設けることが必要と考える。
- 参加した子供が学んだ成果を家庭で実践できるように、プラットフォームから働きかけを行う必要がある。
- 地域プラットフォームの機能充実を図るため、より多くの団体の参画を得るようにし、子供たちに対して、より多様な体験の場を提供できる環境を整える必要がある。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- 鹿部町・七飯町・木古内町では、3町交流事業実行委員会を組織している。この実行委員会を通して、今後もプラットフォームを維持し、防災に限らず交流事業を推進する。
- 地域学校協働活動として、学校運営協議会と連携し、地域全体で子供たちを守り育てる環境の醸成に努める。

5. 団体プロフィール

北海道教育委員会(教育庁生涯学習推進局生涯学習課)

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL:011-231-4111(代表) FAX:011-281-1487

HP: <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp>

【鹿部町】

人口4,093名(1856世帯)の漁業を主産業とした町。町の北部には別荘地があり道外からの移住者も多い。主幹産業は漁業で、ホタテ養殖等安定した漁獲がある。町には幼稚園、小学校、中学校が各1つずつある。

駒ヶ岳の麓に位置していて、過去には死者700名を出した大噴火もあり、鹿部町地域防災計画を策定し、防災に努めている。

<鹿部町教育委員会>

北海道茅部郡鹿部町字宮浜311番地2



防災キャンプ参加者集合写真